

(7) 渋谷区産業観光文化部産業観光課との連携3

日 時： 令和7年2月3日（月）16：00～16：30  
場 所： 渋谷区役所7階 産業観光課打合せスペース  
参加者： 3名

渋谷区産業観光文化部 産業観光課長 加藤 博是 様  
高知商業高等学校 事務長 成岡 真  
主幹教諭 三嶋 香世

概要：○ アントレプレナーシップ教育の一環で、東京の企業を訪問し、事業内容や企業理念、キャリアについてお話を伺うことを目的に実施。渋谷区のご紹介により株式会社 NIJIN 様、東急株式会社様をご訪問させていただいた報告とお礼。

- 渋谷区では、小学校 18 校・中学校 8 校が、本年度より平日午後すべての時間を探究活動の時間に充てられるようになり、渋谷区として学校の特色化・魅力化を進めている。
- デジタル分野、部活動の地域移行、障害者に関する全国でも先進的な取組について、庁舎内のブレイルノイエ（見える点字）などの工夫など実際の表示を見せていただいた。
- 渋谷区 HP では区の広報誌しぶや区ニュースに「未来の学校特集号」として、これから校舎の建て替え事業を推進していく様子が視覚的に理解できるよう整理されており、大変参考になった。
- 渋谷区立高等学校はなく、東京都立になるので、高等学校の探究の状況は把握していないが、教育は未来のまちづくりへとつながっている。

(8) 令和6年度 高校コーディネータ全国フォーラム

日 時： 令和7年2月4日（火）10：00～16：00  
場 所： 文部科学省 東館3階講堂（東京都千代田区霞が関3丁目2番2号）  
目 的： 高校改革、高等学校の特色化・魅力化を推進するための高校コーディネータの配置について普及・発信する

参加者： 5名

高知商業高等学校 事務長 成岡 真  
主幹教諭 三嶋 香世  
ライセンスコース長 教諭 山岡 純平  
教諭 土居 生命  
社会マネジメント科 教諭 片山 杏美

プログラム： 9:30 開場

10:00 事務連絡、挨拶、行政説明

10:20 高校コーディネータ全国プラットフォーム構築事業の3年間の総括と展望

11:40～13:00 昼休憩

13:00 事務連絡

13:30 講演 「高等学校の教育改革に向けて」

田村 学 文部科学省初等中等教育局 主任視学官

14:00 グループワーク

テーマ「高校改革の推進及び高校コーディネータの更なる活躍に向けて」

15:45 閉会挨拶

16:00 終了

概要： 講演【田村 学 文部科学省初等中等教育局主任視学官】

① 授業づくり

- ・ 主体的・対話的・深い学びをイメージできる人は実現できる人
- ・ 深い学びはオーセンティック・ラーニング（本気・真剣な）
- ・ 深い学びは知のネットワーク化（精緻化）  
⇒概念獲得⇒得た学びが長持ちする
- ・ 活用・発揮することで深い学び（概念の獲得）につながる
- ・ 活用・発揮とは、いかに話し書くアウトプットの機会を持つか

② マネジメント

- ・ 学習指導要領や学校ビジョンが授業とシンクロ（直結）
- ・ 校外に子どもたちが出る⇒地域が元気になる・活性化する
- ・ 学校というソーシャル・キャピタル(信頼関係や人間関係は資本)
- ・ 学校の自慢は（子ども・先生・部活…）うちのカリキュラム!!!

閉会挨拶【岩本 悠 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事】

① 教員もコーディネータ（気づき）

- ② コーディネータはなぜモヤモヤ(ワクワク・ドキドキ)するのか
- ・ 協働や探究，学校の中に必要と言われだして生まれた立場や機能
  - ・ DX 事業のようにトップダウンで下りてきたものではない

③ いろいろな立場がかみ合っていないかもしれない

- ・ (文科省・教育委員会・管理職・教職員・CN)お一人お一人いい人
- ・ 能力のある人が本気になって思いを持って関わっている
- ・なのにモヤモヤしてしまうのは，分断や縦割りになっていないか
- ・ 我々自身 CN として対立ではなく対話をしよう

次期学習指導要領の改訂に向け，あと2年全力で

出張者の意見等：○ 高校コーディネータ全国フォーラムでは，学習指導要領が定める教育の目的・目標の意味を理解することができた。全国から集まった参加者との対話から高校コーディネータの価値と，学校という組織における問題点について情報共有を図ることができた。ディスカッションを通し，今後さらなる学校の発展の為には，科コースのみでの情報共

有ではなく学校全体で連携を図りながら、探究学習をカリキュラム化していくことが必要であると実感した。

- 高校コーディネータ全国フォーラムでは、学習指導要領が定める教育の目的・目標の理解を深めることができた。その上で、参加者との対話から高校コーディネータの価値や先行事例を学び、本校の課題や強みを含め、今後の方向性を見通すことができた。コーディネータを配置するか否かに関わらず、深い探究活動を実践していくためには、コーディネートの機能は欠かすことができず、誰がどのようにその機能を果たすのか、学校のビジョンとリンクさせ検討・実践していくことが重要である。
- 田村主任視学官の講演では、「精緻化」という言葉が印象に残った。学んだ知識を繋げ、活用し発揮するためには探究学習が重要であり、それは新学習指導要領が最も重視していることであると改めて理解した。また、グループワークでは全国のコーディネータ担当者と情報交換を行い、本校の事業を踏まえて、高校とコーディネータのあり方を再検討することができた。学校側のニーズから始まったコーディネータという新しい立場は、学校とコーディネータのコミュニケーションを大切にすることで、より成果を発揮できると感じた。今回のフォーラムは、今後の高校教育の発展に貢献する人々との交流を通して、非常に有意義な時間となった。
- 現在の学校には、様々な範囲のコーディネータ機能が求められている。その機能を担うのは、教職員でも教育委員会でも外部機関でも地域人材でもあるということ。教職員とコーディネータとの連携においてコーディネータに求められるスタンスは、生徒や教職員への受容的な関わり方や学校経営ビジョンへの理解であることを改めて理解した。学校の教職員と生徒だけで学びを完結させるのではなく、社会の中でともに学び、活躍できる人材に成長していくことを大人も子供も求められていることを一緒に参加した事務長や先生方と確認し、次年度以降につなげていきたいと考えている。



## 5 実施の効果とその評価

### (1) 運営指導委員会の協議まとめ

#### ○ 令和6年度 第1回運営指導委員会

日 時： 令和6年7月31日（水）15:00～16:30

開催場所： 高知商業高等学校 プレゼンテーション室

参加者： 委員6名，校内6名，教育委員会1名（計13名）

令和6年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）

#### 運営指導委員会 参加者名簿

No.	所属	職名	氏 名	備考
1	高知大学 高知大学次世代地域創造センター	特任教授・学長特別補佐 地域DX共創部門 部門長	川 村 晶 子	運営指導委員
2	高知大学次世代地域創造センター	地域DX共創部門	森 和 美	運営指導委員
3	株式会社高知放送	報道制作局専任局長・番組統括	中 嶋 淳 介	運営指導委員
4	株式会社高知新聞社	編集局 紙面審査委員	鍋 島 和 彦	運営指導委員
5	(株) FDAico 運用部	シニア・インベストメント・マネージャー	佐 久 間 雄 一 郎	運営指導委員
6	高知市教育委員会GIGAスクール推進プロジェクトチーム	情報教育学校支援アドバイザー	岡 崎 伸 二	運営指導委員
7	高知商業高等学校	校長	成 瀬 孝 治	
8		副校長	安 岡 孝 浩	
9		教頭	掛 水 さ お り	
10		主幹教諭	三 嶋 香 世	
11		事務長	成 岡 真	
12		担当係長	露 谷 真 也	
13		高知市教育委員会学校教育課 高等学校企画政策室	指導主事	久 保 智 司
14				

## 1 議題

- (1) 授業まとめ案に対する今年度中の課題
- (2) 市商生徒が社会で価値を認められるために必要な力

## 2 議論のポイント

- ・ 思考を深めるためには生徒・教員の言語運用能力を高める必要がある。
- ・ 生徒の主体性を引き出すためには生徒や教員との会話や対話が重要である。
- ・ 市商マネジメント力を社会で活躍する力につなげたい。
- ・ 教員一人一人が、市商マネジメント力の定義を明確にすることが大事である。
- ・ 学校評価において、生徒自身による評価がしっかりできているのかが課題である。
- ・ 商業科の強みである即戦力育成について、コミュニケーション能力の課題が指摘された。コミュニケーション能力を高めるためには、相手の話をよく聞き、理解しようとする姿勢が重要である。
- ・ プロジェクションマッピングは技術的な問題だけでなく、教育的な本質を考える必要がある。
- ・ グローバルな視点から日本の教育全体、特に商業高校の課題を考える必要がある。

- ・ 商業高校の魅力は商業という面白さであり、生徒が自ら考え、行動できる力を育成することが重要である。
- ・ 学校の経営戦略として、生徒の進路や就職状況を分析し、地域貢献に繋げる視点が重要である。
- ・ 教員は生徒の思いを引き出し、寄り添うことが大切である。
- ・ 商業高校の生徒には、変化に対応できる力や諦めずに挑戦する力が求められる。
- ・ 教員は生徒の個性や才能を引き出し、伸ばすための教育を行う必要がある。
- ・ 学校は単なる知識の習得だけでなく、知恵を磨き、知性を高める場であるべきである。
- ・ 商業高校は、ビジネスの本質を理解し、お金の流れを捉える力を養う必要がある。
- ・ 教員は生徒とともに学び、成長していく姿勢が重要である。
- ・ デジタル社会において、アナログの力も重要である。
- ・ デジタル社会において、情報過多の中で批判的に常識を疑う力や倫理観を養う必要がある。
- ・ 商業高校は就職ではなく、ビジネスを創造する力を育成するべきである。
- ・ ビジネスは社会に対して光を生み出すものであるべきであり、そのためにはスキルセットとマインドセットの両方が必要である。
- ・ グロースマインドセットを持ち、失敗を成長の機会と捉え、諦めずに挑戦する力を養う必要がある。
- ・ 自分の考えや思いを言葉で表現し、周りの人を巻き込む力を身に付けることが重要である。
- ・ 商業高校は生徒が自分の興味や関心に基づいてテーマを見つけ、深く探究できるような教育を行うべきである。
- ・ 商業高校は生徒が社会の変化に対応し、自分の力で生きていけるように、様々な力を育成する必要がある。

### 3 成果

- (1) 創造的な教育方法の導入により、生徒の学校生活に良い変化が見られたこと。
- (2) 各学科コースで特徴的な取組が行われ、生徒の積極性や問題解決能力を高めることができたこと。

### 4 課題

- (1) 生徒自身による評価：生徒の主体性を育む上で、生徒自身による評価がしっかりとできているのか、その方法や精度について検討する必要がある。
- (2) 教員研修：教員の思考力や指導力を向上させるための研修方法について、より効果的なものを模索する必要がある。具体的には、先生方が研修で得た知識やスキルを、どのように生徒の指導に活かすようにするか。

- (3) 言語運用能力：生徒・教員ともに、思考を深め、主体性を育むために、言語運用能力を高める必要がある。
- (4) 市商マネジメント力：生徒が社会で活躍できるよう、市商マネジメント力の定義を明確化し、育成に力を入れる必要がある。
- (5) 財源確保：学校運営に必要な財源をどのように確保していくか、企業版ふるさと納税の活用も含めて検討する必要がある。

これらの課題解決に向けて、学校関係者・委員が協力し、第2回運営指導委員会でも、引き続き具体的な方策を検討していくことが重要であると考えます。



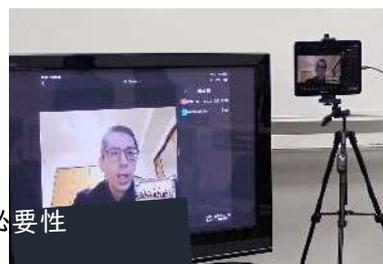
- 令和6年度 第2回運営指導委員会
- 日 時：令和7年2月13日（木）16：00～17：30
- 開催場所：高知商業高等学校 プレゼンテーション室
- 参加者：委員6名，校内6名，教育委員会1名（計13名）

#### 1 主な議題

- (1) 高知商業高等学校地域創造プログラムの成果と課題
- (2) 今後のネクストステージに進むための課題
- (3) 生徒の発表内容に関する意見交換
- (4) プログラムの持続可能性
- (5) 教育方法の改善点

## 2 主な意見

- (1) 生徒のプレゼンテーション能力が向上した点
- (2) 生徒の主体性や課題発見能力の育成
- (3) 地域社会との連携による実践的な学びの重要性
- (4) 生徒の発表内容における本質的な課題への深掘りの必要性
- (5) データ分析や思考力，調査能力の向上
- (6) プログラムの成果を評価するための指標の必要性
- (7) デジタル技術を活用した教育の推進
- (8) ビジネス視点での教育の重要性
- (9) 生徒の動機づけの重要性
- (10) 生徒の個性を伸ばす教育の必要性



## 3 今後の方向性

- (1) 生徒の発表内容における課題の本質的な理解を深める
- (2) データ分析や思考力，調査能力を向上させるための教育方法の改善
- (3) プログラムの成果を評価するための指標を策定する
- (4) デジタル技術を活用した教育を推進する
- (5) ビジネス視点での教育を強化する
- (6) 生徒の主体性を尊重し，個性を伸ばす教育を推進する
- (7) 地域との連携をさらに深め，実践的な学びを充実させる



## 4 成果

- (1) 生徒のプレゼンテーション能力の向上  
生徒たちは，以前に比べて格段に質の高いプレゼンテーションを行えるようになった。特に，特進コースの生徒たちは原稿を見ずに，聴衆を引き込むような発表をすることができていた。また，発表資料も見やすく，内容が伝わりやすいように工夫されていた。
- (2) 生徒の主体性や課題発見能力の育成  
生徒たちは，地域社会の課題に目を向け，自分たちに何ができるかを考え，行動する力を身に付け，自ら課題を発見し，解決策を模索するプロセスを通して，主体的に学ぶ姿勢が育まれた。
- (3) 地域社会との連携による実践的な学びの推進  
地域の人々や企業との連携を通して，生徒たちは実践的な学びを深めることができ，実際の現場での体験を通して，教科書では学べない知識やスキルを習得した。
- (4) 生徒の成長  
地域社会との交流や課題解決の取り組みを通して，生徒たちはコミュニケーション

能力、協調性、問題解決能力など、様々な能力を向上させることができた。また、自己肯定感や達成感を感じることができ、自信を持つことができた。

これらの成果は、生徒たちの成長を促し、将来社会で活躍するための基盤を築く上で、非常に重要なものである。

## 5 課題

### (1) 発表内容の本質的な課題への深掘りの不足

生徒の発表が表面的で、課題の本質に迫れていない部分があった。データや情報に基づいて発表しているものの、その背景にある問題意識や感情が伝わりにくい。

本当に自分たちがそう思っているのかという部分に対しての深掘りが足りていない。

### (2) データ分析や思考力、調査能力の向上

データをどのように解釈し、活用するかという能力がまだ十分に育っておらず、物事を多角的に捉え、深く掘り下げる思考力を養う必要がある。

また、データと実体験とを合わせて発表する事が重要である。

### (3) プログラムの持続可能性

教員の負担が大きく、限られたリソースの中でプログラムを継続していくための体制づくりが課題である。

### (4) ビジネス視点での教育の強化

商業高校としての専門性を生かし、ビジネスの視点を取り入れた教育をさらに強化する必要がある。例えば、お金に対する教育やビジネスプランとして起業できるか？という視点など。

### (5) 評価指標の策定

プログラムの成果を客観的に評価するための指標がまだ十分に整備されていない。

生徒の成長を適切に評価するための指標を策定する必要がある。

### (6) 地域との連携

地域との連携は深まっているが、さらに継続的に発展させていく必要がある。

中学校への発信も積極的に行う。



(2) 令和6年度創造的教育方法実践プログラム教職員アンケート（令和7年2月実施）

【参考：回答率50%】

① 今年度ペアワークやグループワーク等協働的な学習場面を取り入れましたか？

教職員 肯定的回答100%

② 今年度ペアワークやグループワーク等対話的な学習場面を取り入れましたか？

教職員 肯定的回答100%

③ 今年度校外学習やフィールドワーク等体験的な学習場面を取り入れましたか？

教職員 肯定的回答90%

④ 今年度外部の教育者（外部講師・企業）と連携した学習場面を取り入れましたか？



教職員 肯定的回答 54%

教職員 否定的回答 46%

⑤ 探究するテーマと課題を設定した取組をしましたか？

⑥ 探究するテーマと問いをつくる取組をしましたか？

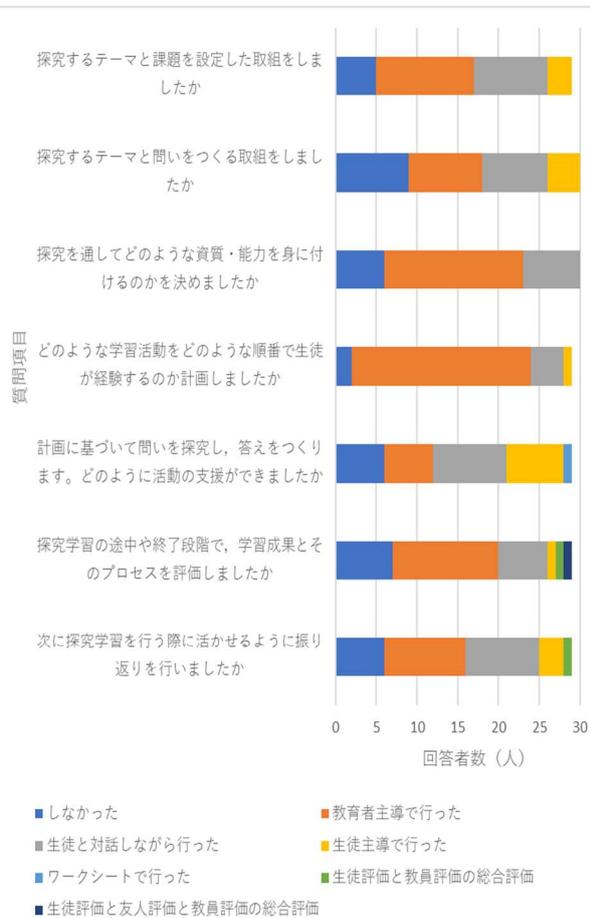
⑦ 探究を通してどのような資質・能力を身に付けるのかを決めましたか？

⑧ どのような学習活動をどのような順番で生徒が経験するのか計画しましたか？

⑨ どのように活動の支援をしましたか？

⑩ 探究学習の途中や終了段階で、学習成果とそのプロセスを評価しましたか？

⑪ 次に探究学習を行う際に活かせるように振り返りを行いましたか？



(3) 高校魅力化評価システムアンケート

① 市商マネジメント力と対応する高校魅力化評価システム(生徒アンケート)

市商 Management skills マネジメントスキル

社会で活躍するための力を身につける!

## それが 市商マネジメント力

<b>コミュニケーション力</b>  ※協働的な学びを推進する力	<b>課題発見・課題解決力</b>  ※潜在的な問題を見つけ、課題に対して解決・実行・成果を出す力	<b>プレゼンテーション力</b>  ※自らの言葉で発表・説明する力や論理的に表現する文書・資料作成力	<b>講義理解力</b>  ※講義でのメモ力 ※講義をもとにした論述力や討論力	<b>ICT・英語活用力</b>  ※ Society5.0・生成AIに対応するタブレット活用力 ※英語でコミュニケーションできる力	<b>察する力</b>  ※自主性・創造性につながる力	<b>失敗から学ぶ力</b>  ※挑戦する力 ※振り返る力
---	--	--	---	---	--	---

前年度の学年別全国平均と比較して本校3年生の伸長(pt)が高いアンケート項目	<b>13.9pt</b> 高い設問	<b>28.3pt</b> 高い設問	<b>24.9pt</b> 高い設問	<b>17.6pt</b> 高い設問	該当なし	<b>16.5pt</b> 高い設問	<b>22.9pt</b> 高い設問
	自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた <b>79.3%</b>	地域社会などでボランティア活動に参加した <b>43.1%</b>	活動、学習のまとめを発表する <b>84.3%</b>	活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う <b>58.3%</b>	該当なし	生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある <b>87.9%</b>	生徒同士で活動、学習の振り返りを行う <b>85.2%</b>
2024 肯定的回答割合 <b>1位</b>	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる <b>96.2%</b>	地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる <b>90.9%</b>	グループで協力しながら学習や調べものを行う <b>94.8%</b>	学校で学習することで自分ができることやしたいことが増えている <b>88.5%</b>	該当なし	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある <b>96.1%</b>	自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる <b>95.6%</b>
2024 肯定的回答割合 <b>2位</b>	相手の意見を丁寧に聞くことができる <b>92.9%</b>	忍耐強く物事に取り組むことができる <b>80.0%</b>	話し合った内容をまとめる <b>87.9%</b>	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる <b>78.3%</b>	該当なし	ありのままの自分が尊重される雰囲気がある <b>92.4%</b>	うまくいか分らないことにも意欲的に取り組む <b>87.1%</b>
2024 肯定的回答割合 <b>3位</b>	自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある <b>92.4%</b>	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある <b>76.5%</b>	活動、学習のまとめを発表する <b>84.3%</b>	授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べものを行った <b>67.3%</b>	該当なし	地域から大切にされている雰囲気を感じる <b>91.3%</b>	生徒同士で活動、学習の振り返りを行う <b>85.2%</b>
2024 肯定的回答割合 <b>4位</b>	一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする <b>87.2%</b>	自主的に調べ物や取材を行う <b>73.5%</b>	自分の考えを文章や図表にまとめる <b>76.0%</b>	家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する <b>66.1%</b>	該当なし	人と違うことが尊重される雰囲気がある <b>90.6%</b>	人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある <b>76.9%</b>
2024 肯定的回答割合 <b>5位</b>	立場や役割を越えて協働する機会がある <b>86.3%</b>	地域の人や課題などにじかにふれる機会がある <b>71.3%</b>	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる <b>75.3%</b>	活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う <b>58.3%</b>	該当なし	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある <b>89.6%</b>	勉強したものを実際に応用してみる <b>68.6%</b>

### 生徒の高校魅力化評価システムアンケート調査に係る全体的な傾向

- ・ 多くの項目で伸長:多くの項目において、2022年度から2024年度にかけて数値が伸長しており、学校の取り組みが生徒の成長に繋がっていることを示唆。
- ・ 全国平均を上回る項目が多い:多くの項目で全国平均を上回っており、高知商業高校の教育水準が高いことを示す。
- ・ 特に主体性・探究性・社会性:主体性、探究性、社会性に関わる項目の伸びが顕著であり、高知商業高校がこれらの能力育成に力を入れていることを示唆。

#### 【結果の読み取り方】

- 各設問を「コミュニケーション力」「課題発見・解決能力」「プレゼンテーション力」「講義理解力」「察する力」「失敗から学ぶ力」の資質・能力に関する領域に分類しています。
- 上の6つの領域のデータを「時間軸(前年度からの伸び)」「属性・地域軸(学年別前年度全国平均との比較)」で把握し、2024年の肯定的回答割合の高いものから順に並べています。
- 各設問の肯定的回答割合(%)とは、「4あてはまる/よくする」「3どちらかといえばあてはまる/ときどきする」という肯定的回答をした割合です。
- ※ 0~10の11段階で回答する「幸福度」「生活満足度」のみ、6以上の肯定的回答割合としています。
- 網掛け部分は、前年度と比較して伸長が見られたアンケート項目です。

### コミュニケーション力

高校魅力化評価システムアンケート項目	2024年度	2023年度	前年度と比較(全体)	学年別前年度全国平均との比較
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	96.2%	95.3%	生徒 0.9pt ↑	1年 +2.7pt 2年 +1.0pt 3年 +5.7pt
相手の意見を丁寧に聞くことができる	92.9%	93.2%	生徒 0.3pt ↓	1年 +3.5pt 2年 +3.2pt 3年 +4.7pt
自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	92.4%	89.4%	生徒 3.0pt ↑	1年 +6.2pt 2年 +4.6pt 3年 +10.8pt
一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	87.2%	85.6%	生徒 1.6pt ↑	1年 +2.6pt 2年 +7.2pt 3年 +9.1pt
立場や役割を越えて協働する機会がある	86.3%	84.6%	生徒 1.7pt ↑	1年 +8.0pt 2年 +8.9pt 3年 +13.7pt
自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	79.3%	80.0%	生徒 0.7pt ↓	1年 +5.7pt 2年 +6.3pt 3年 +13.9pt
共同作業だと、自分の力が発揮できる	77.4%	74.9%	生徒 2.5pt ↑	1年 +10.0pt 2年 +3.6pt 3年 +10.9pt

#### 【協働性に関わる自己認識】

- ・ 多様性の尊重:「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる」「相手の意見を丁寧に聞くことができる」など、多様性を尊重する項目が高い数値を示しています。
- ・ コミュニケーション力:「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「友達の前で自分の意見を発表することは得意だ」など、コミュニケーション力に関する項目が高い数値を示しています。
- ・ 協調性:「共同作業だと、自分の力が発揮できる」など、協調性に関する項目が高い数値を示しています。

## 課題発見・課題解決力

高校魅力化評価システムアンケート項目	2024年度	2023年度	前年度と比較(全体)	学年別前年度全国平均との比較
地域の人や課題など, 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	90.9%	87.3%	生徒 3.6pt ↑	1年 +12.6pt 2年 +14.7pt 3年 +15.6pt
忍耐強く物事に取り組むことができる	80.0%	78.3%	生徒 1.7pt ↑	1年 +6.4pt 2年 +6.5pt 3年 +17.8pt
地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	76.5%	77.8%	生徒 1.3pt ↓	1年 +1.8pt 2年 +4.6pt 3年 +12.8pt
自主的に調べ物や取材を行う	73.5%	71.4%	生徒 2.1pt ↑	1年 +0.5pt 2年 -1.6pt 3年 +5.7pt
地域の人や課題などにじかにふれる機会がある	71.3%	72.2%	生徒 0.9pt ↓	1年 +7.7pt 2年 +13.3pt 3年 +25.2pt
地域社会の魅力や課題について, 自主的なテーマを設定し, フィールドワーク等を行いながら調べ, 考える学習活動に対して, 熱心に取り組んでいる	70.9%	69.9%	生徒 1.0pt ↑	1年 +14.2pt 2年 +19.5pt 3年 +25.6pt
自分の暮らす地域を, 外からの視点で考える機会がある	70.0%	71.8%	生徒 1.8pt ↓	1年 +5.7pt 2年 +15.2pt 3年 +26.8pt
日本や世界の課題の解決方法について考える	60.9%	62.0%	生徒 1.1pt ↓	1年 +9.6pt 2年 +4.1pt 3年 +21.0pt
地域の課題の解決方法について考える	60.6%	66.1%	生徒 5.5pt ↓	1年 +6.2pt 2年 +9.5pt 3年 +27.4pt
地域の魅力や資源について考える	57.8%	62.9%	生徒 5.1pt ↓	1年 +5.9pt 2年 +6.3pt 3年 +17.6pt
まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	59.2%	60.2%	生徒 1.0pt ↓	1年 -1.2pt 2年 +2.2pt 3年 +7.3pt
客観的な証拠に基づき考え, 判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	54.9%	55.5%	生徒 0.6pt ↓	1年 +0.6pt 2年 -0.6pt 3年 +6.8pt
地域社会などでボランティア活動に参加した	43.1%	43.9%	生徒 0.8pt ↓	1年 +19.6pt 2年 +10.6pt 3年 +28.3pt
学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	37.5%	39.8%	生徒 2.3pt ↓	1年 +1.6pt 2年 +1.9pt 3年 +16.7pt

### 【社会性に関わる学習活動】

- ・ 地域との繋がり: 「地域の魅力や資源について考える」「地域の課題の解決方法について考える」など、地域との繋がりを意識した学習活動が展開されています。

## プレゼンテーション力

高校魅力化評価システムアンケート項目	2024年度	2023年度	前年度と比較(全体)	学年別前年度全国平均との比較
グループで協力しながら学習や調べものを行う	94.8%	94.6%	生徒 0.2pt ↑	1年 +8.8pt 2年 +10.1pt 3年 +16.2pt
話し合った内容をまとめる	87.9%	86.6%	生徒 1.3pt ↑	1年 +8.9pt 2年 +7.8pt 3年 +11.7pt
活動, 学習のまとめを発表する	84.3%	77.4%	生徒 6.9pt ↑	1年 +16.7pt 2年 +17.2pt 3年 +24.9pt
自分の考えを文章や図表にまとめる	76.0%	74.0%	生徒 2.0pt ↑	1年 +8.0pt 2年 +8.0pt 3年 +14.0pt
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	75.3%	74.8%	生徒 0.5pt ↑	1年 +7.9pt 2年 +1.1pt 3年 +8.5pt
友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	63.6%	63.2%	生徒 0.4pt ↑	1年 +6.5pt 2年 -0.5pt 3年 +10.1pt

## 講義理解力

高校魅力化評価システムアンケート項目	2024年度	2023年度	前年度と比較(全体)	学年別前年度全国平均との比較
学校で学習することで自分ができることやしたいが増えている	88.5%	84.7%	生徒 3.8pt ↑	1年 +6.2pt 2年 +6.8pt 3年 +10.5pt
現状を分析し, 目的や課題を明らかにすることができる	78.3%	76.6%	生徒 1.7pt ↑	1年 +7.2pt 2年 -1.6pt 3年 +10.2pt
授業で興味・関心を持った内容について, 自主的に調べものを行った	67.3%	64.8%	生徒 2.5pt ↑	1年 +6.9pt 2年 +2.1pt 3年 +15.1pt
家や寮で, 誰かに言われなくても自分から勉強する	66.1%	63.0%	生徒 3.1pt ↑	1年 +2.4pt 2年 -4.2pt 3年 -3.6pt
活動, 学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う	58.3%	60.9%	生徒 2.6pt ↓	1年 +5.7pt 2年 +2.5pt 3年 +17.6pt
将来の国や地域の担い手として, 積極的に政策決定に関わりたい	49.8%	51.7%	生徒 1.9pt ↓	1年 +3.7pt 2年 +0.8pt 3年 +13.4pt
複雑な問題を順序だてて考えることが得意だ	53.1%	49.6%	生徒 3.5pt ↑	1年 +8.0pt 2年 -4.0pt 3年 +9.0pt

## 察する力

高校魅力化評価システムアンケート項目	2024年度	2023年度	前年度と比較(全体)	学年別前年度全国平均との比較
挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	96.1%	95.0%	生徒1.1pt ↑	1年 +3.4pt 2年 +2.8pt 3年 +5.4pt
ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	92.4%	89.1%	生徒 3.3pt ↑	1年 +5.9pt 2年 +6.2pt 3年 +11.0pt
地域から大切にされている雰囲気を感じる	91.3%	89.8%	生徒1.5pt ↑	1年 +5.7pt 2年 +13.7pt 3年 +15.1pt
人と違うことが尊重される雰囲気がある	90.6%	88.2%	生徒 2.4pt ↑	1年 +6.1pt 2年 +8.0pt 3年 +13.2pt
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	89.4%	87.9%	生徒 1.5pt ↑	1年 +2.7pt 2年 +4.5pt 3年 +12.2pt
生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	87.9%	84.2%	生徒3.7pt ↑	1年 +13.3pt 2年 +13.2pt 3年 +16.5pt
失敗してもよいという安心安全な雰囲気がある	87.2%	84.2%	生徒 3.0pt ↑	1年 +4.4pt 2年 +6.8pt 3年 +12.9pt
自分にはよいところがあると思う	86.9%	86.5%	生徒 0.4pt ↑	1年 +8.3pt 2年 +5.7pt 3年 +12.9pt
地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	81.9%	80.5%	生徒1.4pt ↑	1年 +5.7pt 2年 +9.1pt 3年 +12.9pt

## 失敗から学ぶ力

高校魅力化評価システムアンケート項目	2024年度	2023年度	前年度と比較(全体)	学年別前年度全国平均との比較
自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	95.6%	94.7%	生徒0.9pt ↑	1年 +3.6pt 2年 +4.9pt 3年 +5.7pt
うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	87.1%	84.7%	生徒2.4pt ↑	1年 +9.5p 2年 +8.0p 3年 +13.7p
生徒同士で活動, 学習の振り返りを行う	85.2%	86.6%	生徒 1.4pt ↓	1年 +13.5p 2年 +19.3p 3年 +22.9p
人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	76.9%	77.6%	生徒 0.7pt ↓	1年 +10.7pt 2年 +10.0pt 3年 +20.4pt
勉強したものを実際に応用してみる	68.6%	71.3%	生徒 2.7pt ↓	1年 +1.0pt 2年 -1.9pt 3年 +4.3pt

総合的な満足度(学習・その他・ウェルビーイング)

高校魅力化評価システムアンケート項目	2024年度	2023年度	前年度と比較(全体)	学年別前年度全国平均との比較
学校の一員だと感じている	93.6%	91.4%	生徒 2.2pt ↑	1年 +6.0pt 2年 +7.1pt 3年 +9.1pt
この学校を中学生にすすめることができる	92.8%	88.8%	生徒 4.0pt ↑	1年 +8.8pt 2年 +15.9pt 3年 +17.5pt
大切な人を幸せにしたり, 楽しませたりしていると思う	89.0%	86.6%	生徒 2.4pt ↑	1年 +6.9pt 2年 +8.0pt 3年 +15.0pt
自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	83.4%	82.2%	生徒 1.2pt ↑	1年 +7.9pt 2年 +6.2pt 3年 +11.3pt
自分の将来についての見通し(将来こうゆう風でありたい)を持っている	81.8%	83.0%	生徒 1.2pt ↓	1年 +1.7pt 2年 +0.1pt 3年 +12.1pt
自分の将来について明るい希望を持っている	80.3%	79.9%	生徒 0.4pt ↓	1年 +3.8pt 2年 +2.5pt 3年 +18.3pt
普段のあなたの幸福度	78.9%	78.4%	生徒 0.5pt ↑	1年 +2.2pt 2年 +6.7pt 3年 +19.4pt
今の生活全般の満足度	77.6%	77.9%	生徒 0.3pt ↓	1年 -0.6pt 2年 +6.4pt 3年 +20.9pt
将来, 自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	76.4%	77.6%	生徒 1.2pt ↓	1年 +7.4pt 2年 +9.5pt 3年 +12.4pt
この地域を, 将来暮らす場所としてすすめることができる	75.9%	76.4%	生徒 0.5pt ↓	1年 +8.0pt 2年 +1.9pt 3年 +12.0pt
住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を自らの手で未来に伝えていきたい	68.8%	71.1%	生徒 2.3pt ↓	1年 +11.1pt 2年 +8.2pt 3年 +19.1pt
わたしは自分自身に満足している	60.3%	61.6%	生徒 1.3pt ↓	1年 +1.5pt 2年 +2.0pt 3年 +12.9pt
日本の将来は明るいと思う	56.6%	52.7%	生徒 3.9pt ↑	1年 +19.7pt 2年 +13.1pt 3年 +14.7pt
現在の日常生活に不安や心配事がない	56.0%	61.6%	生徒 5.6pt ↓	1年 -0.6pt 2年 +2.9pt 3年 +16.7pt

【まとめ】 市商マネジメント力の伸長には、生徒の主体的な学びや地域社会との連携が大きく影響していることが分かった。次年度は、強みを維持しつつ、課題を克服し、生徒の主体性と多角的な視点を育む教育を推進していくことが重要と考える。

② 学習環境と対応する高校魅力化評価システム(教職員アンケート)

この資料は、高校魅力化評価システムの教職員アンケート結果を、年代別に「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの観点から分析したものです。教職員が学習環境づくりにおいてどのような点を重視し、どのような変化があったのかを知ることができます。

主体性に関わる学習環境づくりにおいて維持・伸長した項目(前年度との比較)

【20代】 6人

目標や当事者意識をもって挑戦することができる	6.7pt ↑
挑戦する人に対して、応援することができる	40.0pt ↑
誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている	43.3pt ↑

【30代】 11人

目標や当事者意識をもって挑戦することができる	0pt
挑戦する人に対して、応援することができる	20.0pt ↑
子どもの自己決定を尊重できている	0pt

【40代】 14人

失敗を恐れずに挑戦することができる	28.6pt ↑
子どもの自己決定を尊重できている	0pt

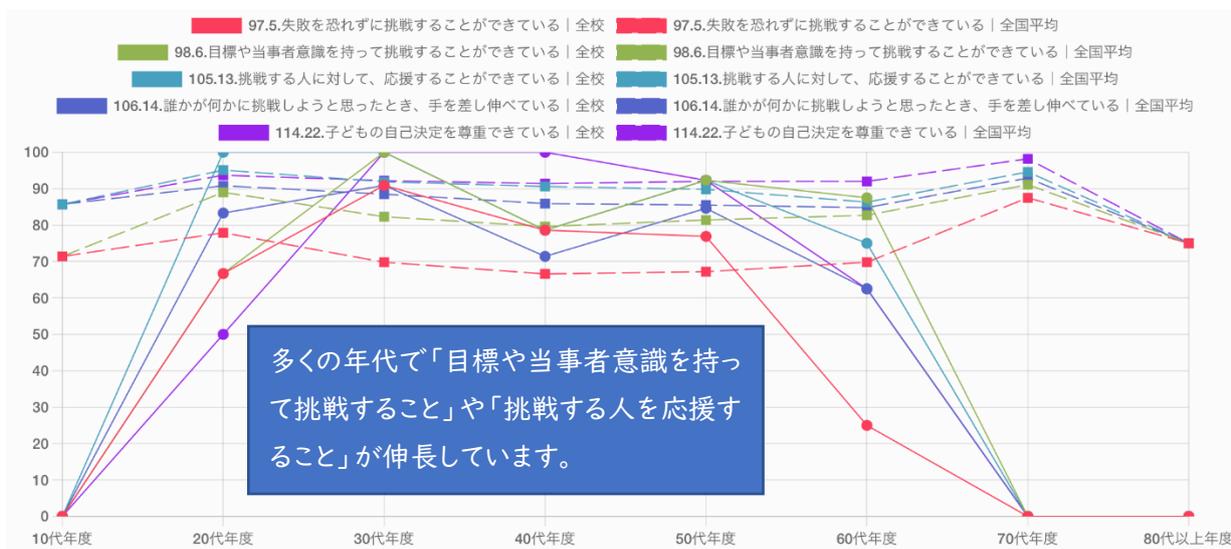
【50代】 13人

失敗を恐れずに挑戦することができる	5.5pt ↑
目標や当事者意識をもって挑戦することができる	20.9pt ↑
挑戦する人に対して、応援することができる	35.2pt ↑
誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている	27.5pt ↑
子どもの自己決定を尊重できている	6.6pt ↑

【60代】 8人

目標や当事者意識をもって挑戦することができる	27.5pt ↑
------------------------	----------

年代別本校教職員(実線)と全国平均(点線)との比較



協働性に関わる学習環境づくりにおいて維持・伸長した項目(前年度との比較)

【20代】 6人

自身の挑戦に, 周囲を巻き込もうとしている	0pt
-----------------------	-----

【30代】 11人

目標や当事者意識をもって挑戦することができる	12.7pt ↑
自身の挑戦に, 周囲を巻き込もうとしている	10.9pt ↑

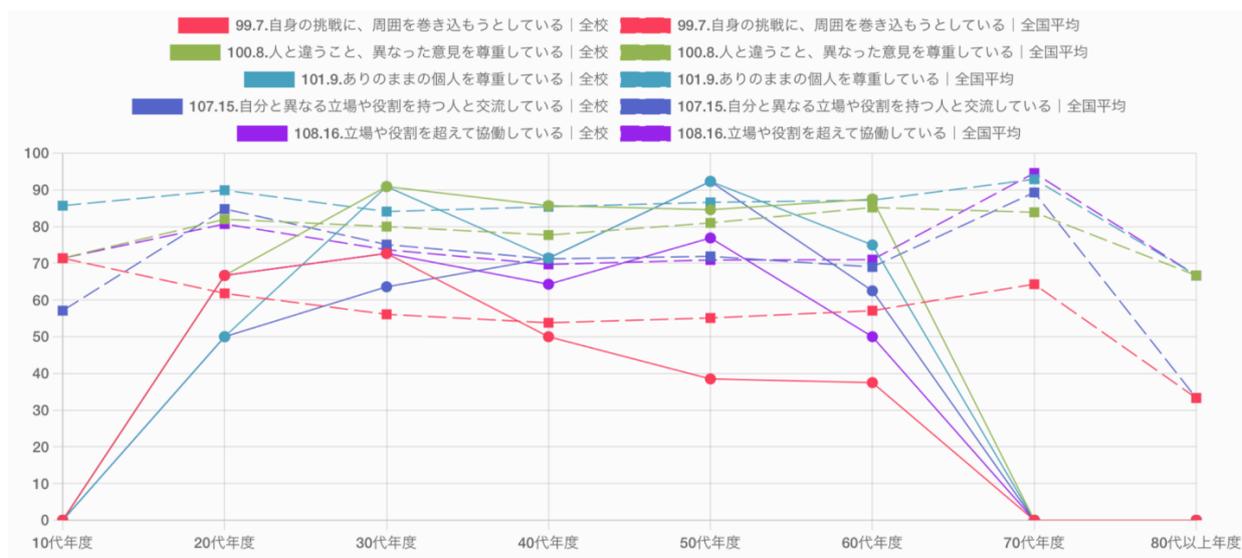
【40代】 14人

人と違うこと異なった意見を尊重している	23.2pt ↑
---------------------	----------

【50代】 13人

人と違うこと異なった意見を尊重している	13.2pt ↑
ありのままの個人を尊重している	6.6pt ↑
自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している	35.2pt ↑
立場や役割を越えて協働している	34.0pt ↑

年代別本校教職員(実線)と全国平均(点線)との比較



- ・ 30代で「目標や当事者意識を持って挑戦すること」「自身の挑戦に周囲を巻き込むこと」が伸長しています。
- ・ 40代で「人と違う意見を尊重すること」が伸長しています。
- ・ 50代では多くの項目が大きく伸長しています。

探究性に関わる学習環境づくりにおいて維持・伸長した項目(前年度との比較)

【20代】 6人

本音を気兼ねなく発言できる	30.0pt ↑
地域に将来のことや実現したいことなどを話し合える人がいる	30.0pt ↑
生徒に対してじっくりと話を聞き,考える手助けができています	0pt

【30代】 11人

本音を気兼ねなく発言できる	52.7pt ↑
地域に将来のことや実現したいことなどを話し合える人がいる	21.8pt ↑
生徒に対してじっくりと話を聞き,考える手助けができています	10.9pt ↑
お互いに問いかけ合う機会がある	1.8pt ↑

【40代】 14人

お互いに問いかけ合う機会がある	41.1pt ↑
-----------------	----------

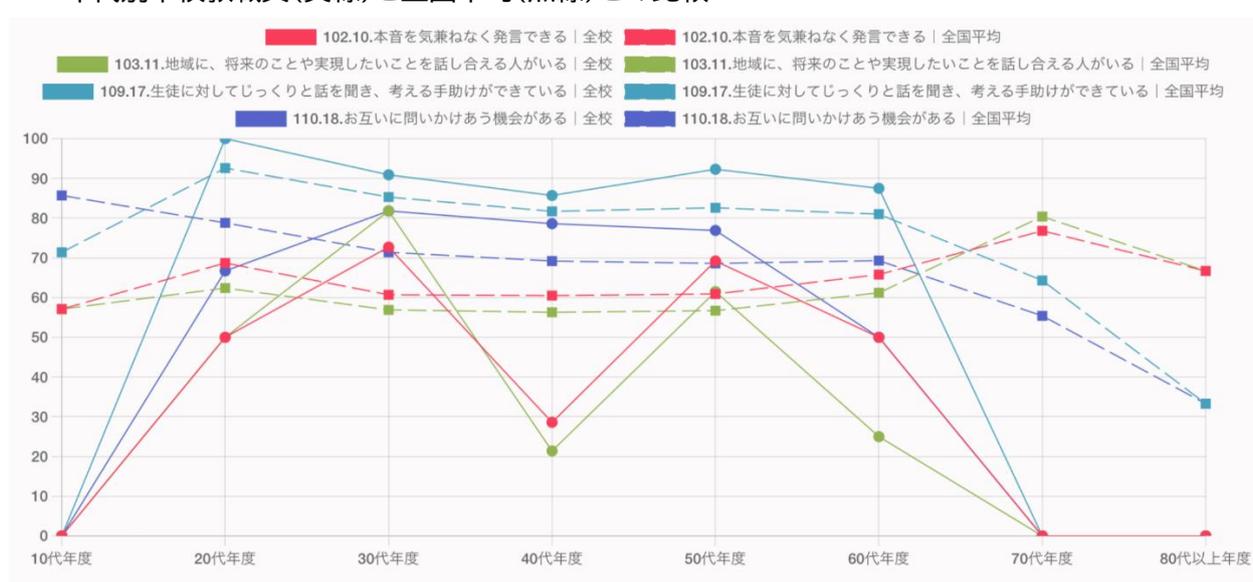
【50代】 13人

本音を気兼ねなく発言できる	12.1pt ↑
地域に将来のことや実現したいことなどを話し合える人がいる	18.6pt ↑
生徒に対してじっくりと話を聞き,考える手助けができています	20.9pt ↑
お互いに問いかけ合う機会がある	5.5pt ↑

【60代】 8人

本音を気兼ねなく発言できる	10.0pt ↑
---------------	----------

年代別本校教職員(実線)と全国平均(点線)との比較



- ・多くの年代で「本音を気兼ねなく発言できること」「地域に将来について話し合える人がいること」が伸長しています。
- ・30代と50代で「生徒の話をじっくり聞き,考える手助けをすること」が伸長しています。
- ・40代で「お互いに問いかけ合う機会があること」が大きく伸長しています。

社会性に関わる学習環境づくりにおいて維持・伸長した項目(前年度との比較)

【20代】 6人

自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている	0pt
生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	20.0pt ↑
地域の人や課題などにじかにふれる機会を持っている	26.7pt ↑

【30代】 11人

地域で生徒を育てるという意識を持っている	30.9pt ↑
----------------------	----------

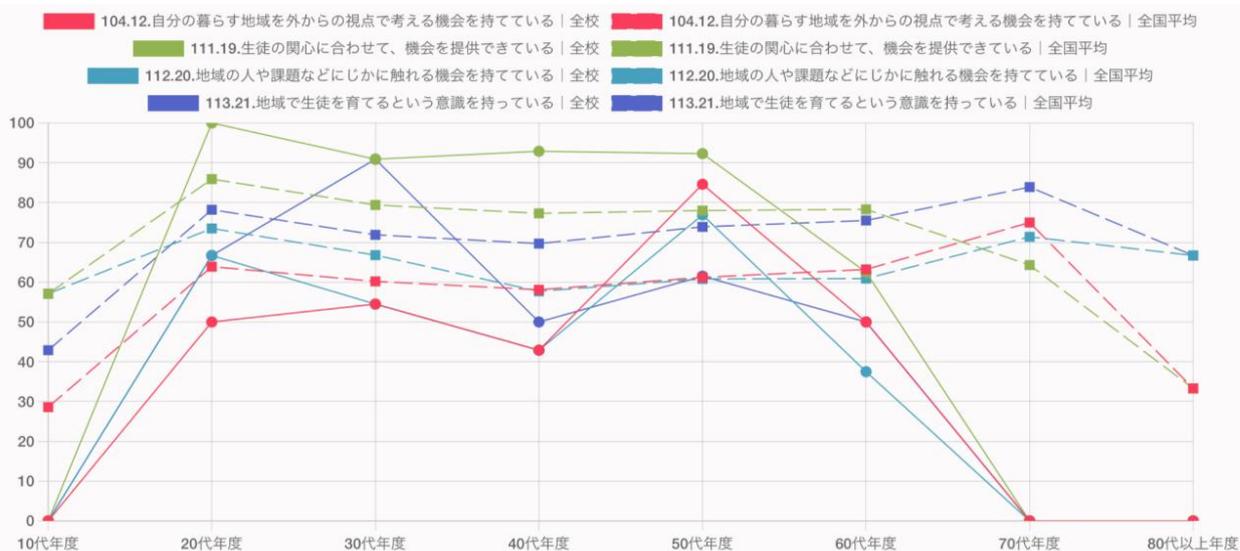
【40代】 14人

生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	5.4pt ↑
-----------------------	---------

【50代】 13人

自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている	27.5pt ↑
生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	20.9pt ↑
地域の人や課題などにじかにふれる機会を持っている	34.0pt ↑
地域で生徒を育てるという意識を持っている	4.4pt ↑

年代別本校教職員(実線)と全国平均(点線)との比較



- ・ 20代と50代で「地域の人や課題に触れる機会を提供すること」が伸長しています。
- ・ 20代と40代と50代で「生徒の関心に合わせて機会を提供すること」も伸長しています。
- ・ 30代では「地域で生徒を育てる意識を持つこと」が大きく伸長しています。
- ・ 50代では「自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持つこと」「地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている」も伸長しています。

その他(満足度等)に関わる維持・伸長した項目(前年度との比較)

【20代】 6人

この学校を中学生におすすめできる	3.3pt ↑
この学校に関わってよかったと思う	0pt

【30代】 11人

今の生活全般の満足度	14.5pt ↑
普段のあなたの幸福度	23.6pt ↑
この学校を中学生におすすめできる	10.9pt ↑
この学校に関わってよかったと思う	20.0pt ↑
この地域を将来暮らす場所としておすすめできる	12.7pt ↑

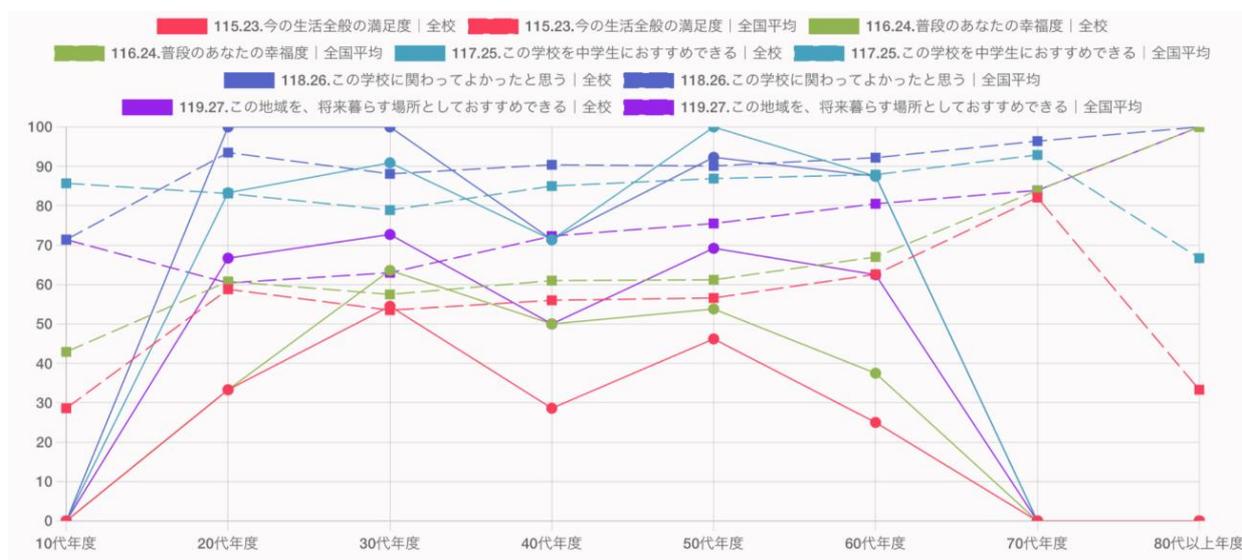
【50代】 13人

この学校を中学生におすすめできる	14.3pt ↑
この学校に関わってよかったと思う	6.6pt ↑

【60代】 8人

普段のあなたの幸福度	17.5pt ↑
------------	----------

年代別本校教職員(実線)と全国平均(点線)との比較



- ・ 30代と50代で「学校を中学生におすすめできること」「学校に関わってよかったと思うこと」が伸長しています。
- ・ 30代では「生活全般の満足度」「幸福度」「地域を将来暮らす場所としておすすめできること」も伸長しています。

その他(地域・社会との協働)に関わる維持・伸長した項目(前年度との比較)

【20代】 6人

(地域・社会との協働を通して)学習意欲が高まった生徒がいる	6.7pt ↑
-------------------------------	---------

【50代】 13人

(地域・社会との協働を通して)授業の質向上につながっている	20.9pt ↑
(地域・社会との協働を通して)自身の資質・能力の向上につながっている	27.5pt ↑
(地域・社会との協働を通して)学習意欲が高まった生徒がいる	28.6pt ↑

年代別本校教職員(実線)と全国平均(点線)との比較



・ 50代では「授業の質向上」「自身の資質向上」「生徒の学習意欲向上」に地域・社会との協働が繋がっているという認識が示されています。

【まとめ】・ 教職員の意識は、主体性、協働性、探究性、社会性の各側面において、概ね向上していると言えます。

- ・ 特に、協働性や探究性においては、40代以上の教職員の意識改革が進んでいることが示唆されます。
- ・ 地域・社会との連携は、教職員の意識向上や生徒の成長に繋がっていると考えられます。

【今後の展望】・ 教職員の主体性、協働性、探究性、社会性をさらに伸ばすための研修やサポート体制を充実させる必要があります。

- ・ 若手教員とベテラン教員が互いに学び、成長できる環境づくりが重要です。
- ・ 地域・社会との連携を強化し、生徒にとってより豊かな学びの機会を提供する必要があります。

## 6 成果発表・成果普及

### (1) 課題研究発表会及び市商地域創造プログラム報告会

日時：令和7年2月13日（木）13：00～16：00

会場：高知県立県民文化ホール オレンジホール

後援：NHK 高知放送局・高知新聞社・RKC 高知放送・KUTV テレビ高知・KSS さんさんテレビ

#### ■ 発表紹介（発表順）

##### ① 総合マネジメント科 特進コース

###### The potential of young people ～若者の可能性～

私たち特進コースは、高知県内5社の企業様の協力を得て企業課題解決に挑戦しました。  
1学期は高知さんさんテレビ様の「高校生にウケる番組提案」という探究テーマから番組案を考案し、  
2学期は4つの企業から頂いた探究テーマを各チームで取り組みました。  
企業様の「若い人の考えや発想を取り入れたい」という期待に応えようと  
私たちが考案したプロジェクト案について発表します。



##### ② 社会マネジメント科 国際コース

###### 私たちの国際協力 ～フェアトレード商品を使った商品開発活動～

私たち社会マネジメント科国際コースでは、授業を重ね世界の現状・課題について学んできました。その中で今年「高校生ができる国際貢献活動」に挑戦しました。  
国際問題を学んでいく中で、自分を変えたいと思うもの・大切にしたいことが一人一人に生まれました。  
全員が途上国に貢献するという目的を持ち、それぞれが目標を立て、思いを行動に移しました。高知県で行った世界のためのチャレンジをお聞きください。



#### ■ 『市商地域創造プログラム報告会』

##### ③ 総合マネジメント科 ライセンスコース

###### アントレプレナーシップの可能性～ライセンスコースが未来を創る～

私たちは2年間「アントレプレナーシップ」を学んできました。ビジネスを創造することは、  
未来や社会を変えていく。そんなことを考えながら、日々の授業に取り組んできました。  
そして、ビジネスをプランニングする中で、多くの体験をし、たくさんの人に出会い成長してきました。  
本日は私たちが創り上げたビジネスプランをご覧いただくと同時に、  
私たちが学んだ「アントレプレナーシップ」とは何かを伝えたいと思います。



##### ④ スポーツマネジメント科

###### 高知の未来～高校生の私たちにできること～

私たちスポーツマネジメント科は、私たちが日々関わっているスポーツの動き【加速・減速・切り返し】を活かした『スポ科ゲーム』を考案し、幼児期における運動理論の実証実験を試みました。  
その検証結果をご報告いたします。3年間、アスリートとしての心構えや社会に貢献する方法や考え方を学び、講義と実技においては対象とする年齢に適したスポーツ指導法を学びました。  
この活動を通して、地域を愛し、愛されるスポーツマネジメント科を目指します。



##### ⑤ 情報マネジメント科

###### デジタル技術で高知をクリエイト！

情報・デザインを学んできた私たちが自分たちにできることを考え、  
企画・実践したことを発表します。

- ①ICT小中学校出張講座(3年)
  - ②土佐市高岡商店街活性化プロジェクト(3年)
- 私たちの奮闘の記録を聞いてください！



##### ⑥ 社会マネジメント科 地域実践コース

###### 高知と世界を変えるチェンジメーカーになる～私たちの輝いた高知の光を次の世代へ～

社会マネジメント科地域実践コースは、「高知に貢献できる人材になるために、  
地域の“光”にスポットを当てる」をテーマに学びを進めてきました。  
答えのない問いと共に生きる時代。私たちが2年間学んできたのは、  
人と人のつながりを通して、自分なりの正解を創造することの大切さ。  
私たちが2年間で観つけた光と私たちの想いを皆さんにお伝えします。





▲来賓挨拶：神谷 美来 高知市副市長



▲エール：永野 隆史 高知市教育長



▲事業報告：成瀬 孝治 校長



▲講評：川村 晶子 特任教授・学長特別補佐



▲課題研究発表会及び市商地域創造プログラム報告会場の様子

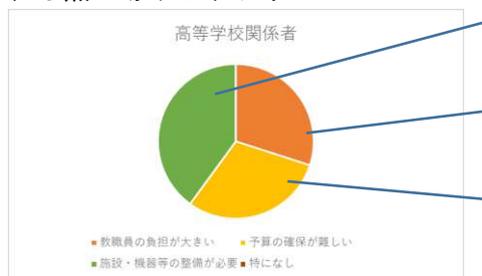
(2) 課題研究発表会及び市商地域創造プログラム報告会来場者アンケート

- ① 本日の報告会で、本カリキュラムについてどの程度理解できましたか？
- ② 本カリキュラムは、現在の教育現場のニーズに合致していると思いますか？
- ③ 本カリキュラムを、ご自身の高等学校に導入・活用したいと思いませんか？
- ④ 本カリキュラムを導入・活用される際に懸念される点がありますか？
- ⑤ 今後、本校の探究学習にどのような形でしたら、かかわっていただけませんか？
- ⑥ 本校の特色ある教育活動の実践にあたり、期待する点がありますか？
- ⑦ 本校の特色ある教育活動は、お子様の成長にとって有益だと思いませんか？
- ⑧ 本校の特色ある教育活動を、お子様にぜひ体験させたいと思いませんか？

高校・企業とも肯定的回答100%

高校・企業とも肯定的回答100%

高校教員・高校 CN 肯定的回答100%

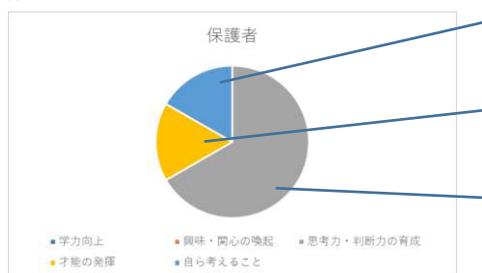


施設・機器の整備が必要 40%

教職員の負担が大きい 30%

予算の確保が難しい 30%

企業・外部協力者肯定的回答100%



自ら考えること 16.7%

才能の発揮 16.7%

思考力・判断力の育成 66.7%

保護者 肯定的回答100%

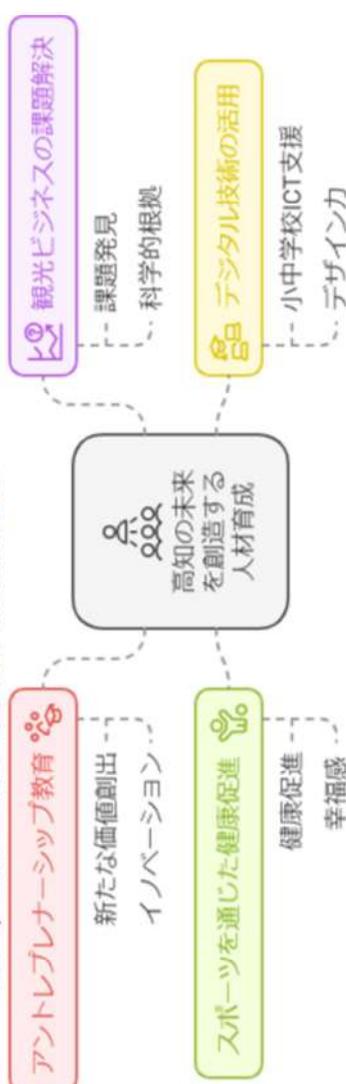
保護者 肯定的回答100%

- ⑨ 本校の特色ある教育活動の改善点などお気づきの点があればお聞かせください。
- 県外高校関係参加者より
    - ・ 貴校の生徒さんの成果報告（発表態度が素晴らしかったです）が聞け、現地まで伺った甲斐がありました。
    - ・ オンラインにて最後まで視聴させていただきました。インターネット環境等、特に問題はございませんでした。素晴らしい舞台以上に、生徒さん達の堂々とした発表の姿にたいへん感銘を受けました。ステージ上の机・椅子等の移動もスムーズだったと思います。  
高知商業の生徒さんたちは、自発的に行動されている点と、企業や大学等との連携が豊富である点が、非常に優れていると思いました。貴校は、高知県を代表する優れた高校でもありますので、高知市・高知県はもとより、四国を巻き込んだうえで、さらに高知の素晴らしさを追求する「地域創造」に取り組まれることを切に願います。海外との結びつきを大切にしようとする発表もありましたので、後輩の生徒さんたちが引き継いでくれると、嬉しいですね。
    - ・ 生徒さんたちの頑張ってきた姿が目浮かぶようでした。ぜひこの姿を本校の生徒にも、起爆剤にしてもらうためにも見せたい、密度の濃い内容でした。本校の取り組みにも結びつけられる点が多かったと校長・教頭とも話をしていましたので、何らかの形で一緒に活動させていただきながら、より良いものを作っていけたらと思います。
  - 企業参加者より
    - ・ もし可能であれば当社の社員との課題解決のためのディベートやセッションがもう少しできれば、社員にも刺激ができ、企業側にもプラスがあるかと思いました。
  - 自治体参加者より
    - ・ 若者に「住み続けたい／いつか戻ってきたい」と思ってもらえるまちづくりについて今後、官民協働での取り組みを進めていく際に、高知商業高校の皆さんとも、連携できる場所があれば、一緒に取組んでいければと思っています。
    - ・ 個人的な意見ですが、入学時と今回のような卒業時で、地域愛着に関する質問や地域課題に対する姿勢などのアンケート調査を生徒自身が回答し、比較することで、学校での学びによる課題解決能力や市商マネジメント力の養成以外にも、生徒の地域愛着心の醸成や自己肯定感の向上に資する取り組みであることを見える化し、学校の存在自体が地域社会に貢献していることを表現することが、地域住民にも広く学校の存在価値を伝えることになるのではないかと感じました。
  - 運営指導委員より
    - ・ 3年間一緒に勉強させていただきました。貴重な機会をいただき感謝しております。
    - ・ 高校生のみなさんの若い感性と教師のみなさんの熱心さに触れて貴重な体験ができ、感謝しています。高知商業のこれからの発展と生徒さんたちの健やかな成長を祈っています。同僚のみなさん、生徒のみなさんよろしくお伝えください。
    - ・ 高校生のフレッシュなエネルギーが垣間見れて、いつもは使わない脳の部分が活性化したような気がします。先生方のリソース問題は察するに余りありますので、皆様の健康第一で、引き続きのご活躍をお祈りしております！貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

# 【高知商業高等学校】市商地域創造プログラム ～地域を創造する市商～

## 市商地域創造プログラム 高知の未来を創造する人材育成 カリキュラム

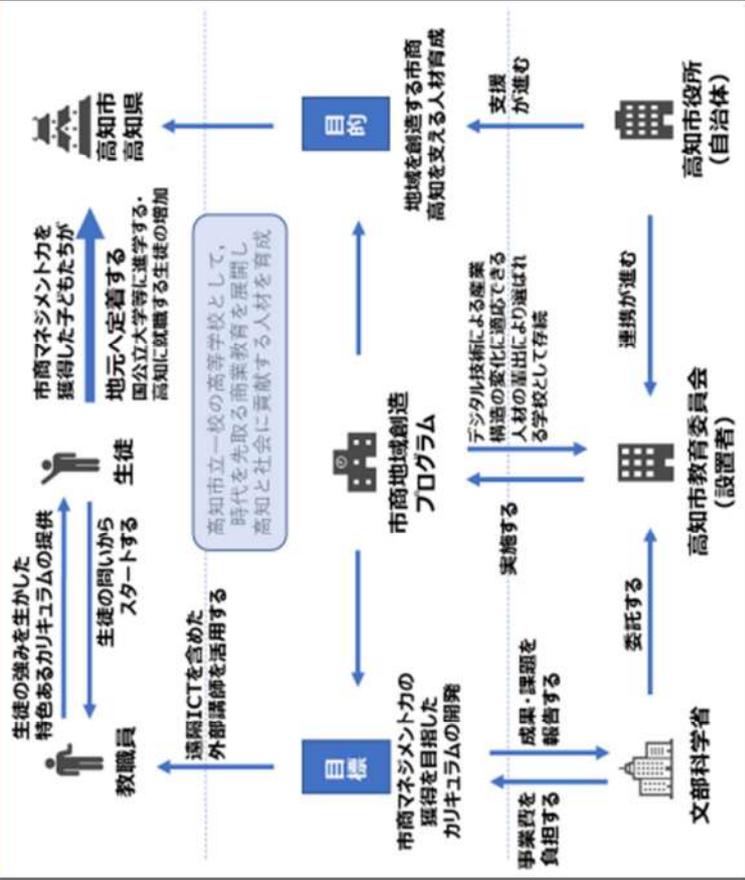
【概要】 科コース設定テーマに基づいて、地域の課題に対応する力及び市商マネジメント力の獲得をめざし、課題の発見やその解決策を見出し、実践・試行錯誤する探究的な学習等を通じて、高知の未来を創造する人材を育成する。



【生徒に身に付けさせたい市商マネジメント7つの力とは】 ①コミュニケーション力 ②課題発見・課題解決力 ③プレゼンテーション力 ④講義理解力 ⑤ICT・英語活用力 ⑥察する力 ⑦失敗から学ぶ力

令和6年度の目標	取組状況
① 目指す生徒の姿(グーラッシュE-I-J-Nホーリジー) 目指す教職員の姿を更新する	報本反始の精神と時代を先取る商業教育の充実に向けスクールポリシー・学校経営ビジョンの見直し。校是・教育方針・スクールミッションの再整理を行う。
② 令和7年度課題研究を中心とした探究学習のグランドデザインを作成する	4つの科コースの生徒の強みを生かして研究を推進。令和4年度から3年間のカリキュラム開発をベースにさらに効果的に実施できるよう校内組織体制を検討中。
③ 教職員研修を講義型から対話型に変更し①②を令和7年度に反映させる	全日制教職員対象に、自分らしい視点で定義した課題・それを解決するためのアイデアを、組織で形にしていけるための方法を体感する研修を年4回開催。
④ 課題研究発表会及び市商地域創造プログラム報告会を開催する	副市長や教育委員会、企業、運営指導委員、外部講師、県外指定校、保護者や校友会など約70名の校外の皆さまに参加いただき、生徒発表と学校報告のプレゼンテーションを2/13に実施。(一部オンライン対応)
⑤ 取組継続のための予算確保の方策を模索する	学校を探究学習やスポーツの拠点として整備し、地域の大人や子どもを対象に、高校生が主体となって推進する地域貢献プロジェクトを実施することにより、交流人口を増やし、コミュニティを強化するための予算を準備中。

## 関係機関との連携・協働体制図



## 成果と課題



If you want to go fast, go alone.  
If you want to go far, go together.

早く行きたければ1人で行け  
遠くに行きたければみんなで行け

We need to go far, quickly.

私たちが遠くに行かなくてはなりません それも早く

文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）  
令和6年度市商地域創造プログラム事業報告書  
（令和6年4月～令和7年3月）

令和7年3月18日 印刷  
令和7年3月21日 発行

発行所 高知商業高等学校  
〒780-0947 高知県高知市大谷6番地  
TEL：088-844-0267（代表） FAX：088-844-3693  
E-mail：kc-201600@city.kochi.lg.jp  
URL：https://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/88/kochisho-h/index.html

印刷所 株式会社伸光堂  
〒780-8040 高知県高知市神田638-24  
TEL：088-834-3434 FAX：088-834-3403

ワクワクする  
市商を、  
全員で

